

樹 姉 ば よ う

No.139
2016.05

慈
悲
喜
捨

アメリカの臨床心理学者カール・ロジャースは、「来談者中心療法」という心理療法理論を提唱し、相談者のことをクライエント（来談者）と最初に称しました。

ロジャースは、人間には自分自身が望む自分を実現（自己実現）する力が自然に備わっていて、成長と可能性の実現を望むのは、人間の性質と本能である、としています。そして、カウンセリングの使命は、その実現を促す環境をつくることだ、と言っています。つまり、カウンセラーがクライエントを無条件に受容し、尊重（共感的理解）すれば、クライエントも自分自身を受容して尊重するようになり、やがて変化と成長が生じる、ということです。

また、クライエントは、現在の環境に対して不適応な状態にあり、自分の全体像を認識する自己概念が硬直化しているの、で、いくら有意義で貴重な体験をしても、自己概念を良い方向に変化させることができないとも言っています。カウンセリングの効果

とは、「自分はこのよう
な人間だから」という考
えを持って、新たな経験
を人生に活かせないよう
な「自己不一致」の状態
から、柔軟な適応性を
持った自己一致に変化さ
せていくことにありま
す。

ロジャースは、「クラ
イエントにとつて必要な
ことは、いつでもクライ
エントを信じ、悩める心
を受けとめ、包み込んで
見守ってくれる存在が近
くにいることだ」と言っ
ています。そのような、
寛大な心を持った人間で
あることはとても難しい
ように思われますが、相
手が自身の子どもや家族
であるとしたら、私たち
は相手の気持ちを理解し
ようと、し、訴えを受け止
め、続けていくことでし
う。その基は、無償の愛
情であることにほかなり
ません。

人間は、新たな経験や
状況の変化に応じて自己
概念を適応させていかな
ければ、健康な心の状態
にはなれない存在なので
す。相手の心（情）に視
点をあわせていきまし
う。

教頭 金安伸一

感謝を形に

明照学園理事長
野口 秀樹



今年も長いゴールデンウィークが始まりました。スタートしたばかりなのに、休みが多くなると気持ち緩み、ついつい怠惰な心が浮き上がってきたりします。でも流されないで下さい。私は自分の足で自分の決めた到着点まで夢を描いて歩いて行く楽しみを持っているのですから、今月も頑張ります。

四月に起こった九州熊本の地震は本当に残念です。悲しいですね。震度1以上の地震が千回近く続いている。物理的な現象にも耐えられないでしょうが、精神的なダメージはさらに大きな事でありましょう。小さいお子さんの心のケアが心配であります。

浄土宗の関係学校（小学

校から大学まで）が全国に四十校近くあります。その中で私が特にお世話になっている学校が熊本にある（学）鎮西学園なのであります。ここには鎮西中学高等学校と真和中学高等学校の二つの学校があります。先日、学校の状況を確認したくて電話連絡をとりました。この惨事の最中に電話など失礼かと思ったのですが、勇気を出して番号をプッシュしたのです。それによると、体育館が半壊、二棟の校舎が使用できない。使用教室の対応に追われているとのことでした。幸い生徒のけが人はいない。対応してくれた事務局長は沈んでいる様子でもなく、この急場をどのように切り抜け、明日につなげていくか必死になっている気配。電話越しではありますが迫力を感じました。窮地に立ったときの人間の潜在能力、素晴らしいのであります。

歩くことです。熊本城の美しい姿と石垣の迫力には感動するのであります。何回歩いてもそのたび毎に素敵な朝と一日を、熊本城はプレゼントしてくれます。「今年も、朝の熊本城へ行きたいな」と思っていた矢先のことでありました。地震大国日本、倒されても倒されても立ち上がっていかねばならないのでしょうか。歴史が証明しているように、日本民族はそんな勇気を持つ民族なのでしょう。

五月二十四日には恒例の『緑蔭祭』が行われます。これは明照学園（幼稚園、中学校、高等学校）の感謝祭であります。先ずは本学園の創設者野口周善先生を初め、歴代の先生や職員及び関係物故者に対して感謝の思いを捧げ供養します。そして在籍している生徒達や職員の家族で亡くなった方達にも同様に感謝し供養するのです。

「いつの日か」ではなく、今、行動したいと考える人のために、最近私が編み出した「感謝」を形にする方法をお教えします。誰に対しても笑顔をやさしく親切に接する。これがその方法なのです。『緑蔭祭』を機会として実践してくれる生徒が出て来ると嬉しいと思います。

法要終了後、定期記念講演会が実施されます。今年の講師は日本テレビ報道番組「news every.」に毎週レギュラー出演している諏訪中央病院名誉院長そし

て作家の鎌田實さんです。演題は「生きていくって素晴らしい 命・教育・希望・絆」であります。生徒達に良い縁が結ばれることに喜びを感じています。

合掌



桜と熊本城（熊本市観光情報サイトより）

熊本の
復興を願って

今月の法語

始まりは すべて小さい

キケロ

震災に思いつくこと

「阪神淡路大震災」からわずか十数年で「東日本大震災」。それからまた五年ほどで、今度は九州での大震災。前二回ほどの人的被害は出ていないものの、断層の大きな動きによる道路の寸断や地割れ、地滑り、それに伴うライフラインの途絶。不自由な避難生活を強いられている人の数は引けをとらない。食料や生活用品は不足し、救援のための物資輸送さえままならない状況だ。全面的な復旧はいつになるのか、見通しは立ちようもない。東北でさえ、復興にはまだほど遠い状況にあるのに、天はまた、我々に試練を与えるのかと、恨めしく思う。

く奮い立たせてくれる話題もある。「阪神淡路以降、特に取り上げられることが多くなった、「災害復興ボランティア」の存在だ。多くの人たちは、自身の生活、仕事もあるであろうに、災害地の惨状を見るに見かねて、取るものも取りあえず、復旧作業に少しでも貢献しよう、と、または、少しの物資であつても届けようとしてくれている。本校でも、「東日本」の際には、多くの生徒たちが、進んで復興支援に参加し、泥にまみれ、大汗をかきながら作業に従事してくれた。

的に活動している。彼らは一様に、「じつとしていられなかった。何か自分に来ることはないかと考えた。」と語る。このような言葉を聞かされると、いい歳をした世代も、思わず目頭が熱くなる。「日頃はチャラチャラした若者たちも、いざとなるとこうも頼もしいものか」と、まだまだ日本も捨てたものではないという気持ちにさせてくれる。

ただ、一方で、彼らのこのような活動を素直な目で見ることもできない人間がいることも事実のようだ。「流行りみたいなのだよ。」「無計画に行っちゃって邪魔なだけさ。」「要はボランティアって自己満足だよ。」どうやら人の善意を真っ直ぐに受け止めようとしていない、あるいは人の活動を認めたがらないという傾向を持つ人は多いらしい。電子ニュースの記事に対するコメントなどには、「立派な心がけだ。」「がんばれ。」などというものに混じって、先のように批判的な、時には「難癖（なんくせ）」と

いと切に願う。

(編集子)

職員紹介

平成二十八年度、新たに着任された職員です。

稲村 晴美(事務)

これからよろしく
お願いします。

■樹徳コミュニティセンター「み法」 5月の行事予定

- (1) アートスクール「編み組み教室」 主催 野村ナナ子さん
11日(水)・18日(水)
- (2) 七草ゼミナール塾 主催 上野文雄さん 19日(木)
- (3) 販売実習 7日(土)・21日(土)・28日(土)
 - ①「相田みつを美術館」取扱い商品
 - ②「星野富弘美術館」取扱い商品
 - ③東北復興支援商品(缶詰等)
- (4) 「桐生籐工芸」ラタンアート工房
12日(木)・19日(木)



桐生錦町一丁目

盛運橋薬局前

新入生の皆様

ご入学おめでとうございます ございます

第一学年 学年目標

○望ましい生活習慣の確立と人間関係の形成。
○学習習慣を定着させ、学力の向上を図る。

第一学年男子部主任

宮坂 伸一郎



目標を達成するには、ある程度の道のりが存在します。諦めずに前進するのが、嫌々ながら前進するのが、それは人それぞれの心の状態であり、非常に単純なことかもしれません。ただ、着実に実行するかしないかは、当人の心一つに他なりません。

現在、何らかの物事を実行しているのであれば、今一度自身の心に問いかけてください。『本気』なのか、そうではないのか。何事もやってみなければ

結果は出ません。試行錯誤して実行するのもよいでしょう。結果の善し悪しは、自らが実行した結果であり、満足が足りない結果の場合は、自らが歩んだ努力の道を見つめ直し、改めてその方向性を修正すればよいだけのことです。

人間は、自らの人生の中で様々な経験を積み重ねること、人間本来の本質が磨かれ、次第に成長が図られる存在です。ですから、何事にも諦めるという思いや行為は、決して抱いてはならないと思います。また、決意とは、『自らの意志を決める』ことです。意志を強固にし、何があっても常に前進することで、自ずと道は切り開かれます。そして、決意したことを実行するのは、自分自身でしかあ

りません。チャレンジ精神を失うことなく、果敢に前へ進むことが大切です。

以上のように、何事も心一つで全ての方向性が定まります。新入生は、新たな道である高校生活がスタートしたばかりです。学習やクラブ活動への取り組み方に対して、それぞれの心に思い描く強い決意をより強く固め、常に前へ前へ進んでいってほしい。そして、心が疲れたときは、仲間や先生方を頼り、再出発への道を歩んでもらいたい。

人間個々の特性は、千差万別です。誰一人として、同じ人間はいません。今の自分をより良く磨き続け、立派な大人へと成長して欲しい。

大いに期待します。

第一学年女子部主任

高草木 裕子



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。数ある高等学校の中から本校を選び、縁あってみなさんが私たちの生徒になって

くれたことに、心から感謝します。このご縁を尊び、これからの高校生活の中で、一人一人が喜んで本校で学び、成果を挙げられるよう、担任一同全力でサポートしていきます。

みなさんに高校生活の三年間を意義深いものとしていただきたために、三つの提案をしたいと思います。

まずは学校生活を充実させて下さい。一所懸命に学業に取り組み、部活動に所属して汗を流す、ボランティア活動に精を出す：「これだけは誰にも負けない」と周囲に誇れる何かを持てる、そんな学校生活を送って下さい。

そして、その学校生活の中で、かけがえのない仲間と出会って下さい。その出会いの中で、自分の理想像や自分に不足しているものに気付かされます。様々な気付きが自分自身を高めることに繋がっていくことでしょう。

最後に、進路目標の達成です。一年生のうちから自分の将来に関心を持ち、希望する進路に進めるよう精進して下さい。

第1学年担任紹介

コース	クラス	担任・副担任
男子部 総合	J 1	〔主任〕宮坂伸一郎・猪熊唯史
	J 2	渡邊信雄
	J 3	池田陽祐・小野澄一郎
	J 4	長谷川幸弘
	J 5	石内佐登史・戸室雄一
	SS	渡邊秀明
特進 特進 進学	K	金田啓志・根岸清行
	S	村上大祐・松井恭央
女子部 総合	j 1	〔主任〕高草木裕子・山田早矢人
	j 2	渡邊秀明
	j 3	星野寿博・須藤康雄
	ss	広井勉
	k	林干佐・鈴木孝
一貫校	4-1	〔主任〕福田肇・横倉正巳
	4-2	荻野高子・飯島かおり

高校卒業後は、誰もが志望大学に簡単に入学できたり、希望する職業に就けるわけではありません。ですが、みなさんの懸命の努力が各人の進路目標をぐっと現実に近いものにする、とができるのは事実です。

つまり、この三年間がみなさんの今後の人生を左右すると言っても過言ではありません。それを意識すれば、高校生活をどのように過ごすべきかがわかってくるでしょう。

保護者の皆様におかれましては、本校の教育方針にご賛同いただき、ご家庭での指導に格段のご協力をお願い致します。

樹徳高校に入学して

新入生が入学して一ヶ月が経ちました。今の素直な気持ちと抱負を、二名の生徒作文から紹介します。

高校生活に向けて

一年K組 今泉 晴喜
(桐生新里中出身)



私が樹徳高校への入学を決めた理由は、「文武両道」を目指すことのできる環境が整っていると感じたからです。私は進路選択の際、本気で野球をやって甲子園を目指す高校に行くか、大学進学のために勉強に力を入れている高校に行くか、とても迷っていました。そんな時、樹徳高校で、大学進学を目指しながら野球部で活躍している先輩がいることを知り、自分も樹徳高校で学びたいと思うようになりました。樹徳高校での三年間を一所懸命頑張り、それを充実したものにするれば、自

分の希望を叶えることができると思っています。

「文武両道」と口にするのは簡単ですが、実現するのはとても難しいことです。野球部の練習は、中学校の頃の練習よりはるかにレベルが上がります。勉強も中学校のときと同じようにやっていたのでは、ついていけないでしょう。その中で「文武両道」を実現するために、私は時間を有効活用することが大切だと考えます。少しの空き時間も無駄にせず、コツコツと努力していきたいと思っています。

私たちが、スポーツや勉強に打ち込むことができるのは、先生方の厚いサポートがあるおかげだと思います。高校選びで迷っていたとき、中学校の先生に相談すると、どの先生も「樹徳の先生は面倒見が良い」と口をそろえて言っていました。実際に入学してみて、先生方の熱意を肌で感じています。先生方が私たちを

支えて下さっているということとを忘れず、日々感謝の気持ちを持って生活します。今年で創立百二年を迎える伝統校の一員であることの自覚と誇りを胸に、夢に向かって全力で頑張りたいと思います。



入学式の様子

樹徳高校に入学して

一年SS組 大塚 かのん
(伊勢崎宮郷中出身)



真新しい制服に身を包まれた私は、四月九日、樹徳高校の一員となりました。厳かな雰囲気で行われた入

学式は、中学校の入学式とは全く違うもので、高校生になったことを改めて実感しました。一週間が経ち、ようやく自分の周りが見えるようになってくると、浄土宗関係の学校だと話には聞いていましたが、信条や六省、十念を唱えたり、朝に黙想をするなど、仏教ならではの習慣があり、とても新鮮でした。また、母が「電車通学はとても疲れる」と言っていたのですが、実際に経験してみると、たった数十分電車に乗っているだけなのに、通学だけで予想以上に体力を消耗することを知り、驚きました。「百聞は一見に如かず」という言葉がありますが、本当にその通りだと驚嘆する一方で、毎日が驚きや新たな発見であることは、経験を通して得られるものがたくさんあるということではないだろうかと思います、今私が置かれている現状を嬉しく感じました。

ところで、皆さんは将来の夢はありますか？ 私には、まだ漠然としています。入学したことで、その芽が、より具体的な形となりまし

た。授業が始まり、早いペースの学習に慌てながらも、クラスメートに遅れをとる訳にいかないと思うと、俄然やる気が出てくるのを感じるようになりました。これからもしっかりと頑張っていきたいと思います。

「夢は大きく、根は深く」この言葉をモットーにしている樹徳高校には、様々な形で夢に向かっていく人々がたくさんいます。自分のなりたいもののために、各々が努力し励む。その夢は十人十色、人の数だけあります。しかし、夢に向かうという強い想いは、皆同じだと思います。だから、私も共に夢に向かって歩んでいきたいと思っています。



花祭りの様子

一貫校

中学校

だより

◆学力向上を目指す

樹徳中の取組

顧問 齊藤 哲也



県内私学に先駆け開校された樹徳中高一貫校は、多くの関係者のご支援により、十六年目を迎えることが出来ました。今年度は、学校長の教育方針を受け、従前の学校組織や教育活動の大幅な見直しを行いました。子供たちや保護者の思いや願いに応え、信頼される教育を推進するためです。

今回は、新たな取組の一端をご紹介させていただきます。まず、全校一丸となつての学習環境づくりです。具体的には基礎学力の定着と既習の知識を活用し、諸課題を解決できる生徒の育成です。その基盤をつくる

のは日々の堅実な授業です。

豊富な進学指導の経験を持つ教員を英語教育強化委員長と数学教育強化委員長（医系進学を兼ねる）に充て、英・数の学力アップ、また、学習システム改革・授業改善担当を配置し、大学進学へ向けての系統的な学習指導の充実を図ります。さらに学習指導主任により学年生徒の学力実態を把握・分析し、学力向上の方策を講じ、教科主任や教科担当及び学年教員との協働態勢による学習支援（進度別教材等）に取り組みます。保護者の相談窓口となり、随時面談に応じられる校内態勢も整えました。お気軽にご活用下さい。

子供たちが切磋琢磨できる質の高い学級・学年集団作り。放課後の職員室を開放し、中・高教員が一貫校ならではの個別指導も行います。

子どもたちの進路を実現するためには、学校とご家庭の緊密な連携が必要で

す。保護者の皆様には学習指導の充実に向けた学校の取組に対し、ご理解をいただき、尚一層のご協力をお願い致します。（今年度は齋藤顧問が連載します。）

◆十六期生を迎え

新年度スタート



入学するまでは、学校見学会や説明会などに参加した時に「勉強づけなのかな」「みんなまじめな人ばかりなのかな」「中学の先生達はいかぬのかな」と不安がありました。しかし、実際に入学してみると、友達や先生達はとても優しく、不安はすぐになくなりました。そして「これなら頑張っていけそうだな」と不安が自信に変わりました。このような恵まれた環境で、私はいろいろなことを学び、医学部に入学することを夢に日々励みたいと思います。

ほかにも部活動などで先輩方と一緒に活動し、記録を残したいと思っています。

樹徳での六年間は始まったばかりだけれど、勉強にも部活動にも毎日頑張っていきたいと思っています。

一年一組 松本慎太郎

私は樹徳中学校に入学して、まず勉強や運動で高め合える友達を作りたいと思いました。まだ学年全員の人は話せていないので自分から積極的に話しかけたいと思っています。そ

して、お互いに頑張れる友達関係を作っていきたいです。

学習面では、全部の教科に全力で取り組みたいと思いますが、特に苦手な数学を中心に勉強して、苦手を克服したいです。また、授業のノートをきれいにとり、予習、復習も毎日欠かさないようにしようと思います。

部活動もあきらめずに取り組みたいです。そして精神的にも強くなりたいです。多くの先輩たちのように立派に成長していきたいと思っています。

私は樹徳中学校に入学して間もないですが、これから先輩や同じ学年のみんなと関わり合いながら「本場の樹徳生」になっていきたいです。

一年二組 關さくら子

樹徳中高一貫教育 学校見学会

5/21 (土)
9:00 ~ 11:30

お問い合わせ等は、
前日までにお電話で。
TEL 0277-45-2257

幼稚園だよい

五月の園生活

何本もある古木の八重桜の花が見頃を迎え、花桃と競い合うように咲き誇っています。新緑とピンクや白の花が映えるその園庭では、鯉のぼりが泳ぎ、子どもたちに元気を与えています。

新学期が始まって三週間が過ぎ、新入園の子どもたちも、園生活のリズムにだいぶ慣れ、その表情に笑顔や余裕が出てきました。美



元気に泳ぐ鯉のぼり

しい自然の中で、園中に子どもたちの笑い声が響いています。

「負担を減らし子どもと楽しむゆとりを！」

五月の連休を過ぎると、子どもたちは互いの行動や、特徴などが見えてきます。自分の思いを主張したり、気に入った子には親しみを感じ、好きな遊びを一緒に行うようになります。一方で、自分とは違うテンポや行をする友だちを、拒絶したりもします。その中で、いろいろな子どもが「思い」を出せるようになり、ぶつかり合い始める時期でもあります。

保育者は子どもたちの『思い』をわかっていく過程を大切に、遊びそのものに、子どもたちの目を向けるなど、その子らしさを引き出し、また他児に実感させるなど、相互にわかり合っていく過程を大切に



園庭で遊ぶ子どもたち

ています。子ども自身が表現することを尊重し、大人が個々の子どもの内面を読み取る努力が必要な時期でもあります。

特に四・五月の忙しい時期は、保育を見直し、一日のスケジュールや活動内容の軽減を図るなど、保育者も子どもと一緒に楽しむことができる、日常のゆとりを確保することが必要です。保育者のゆとりある姿に、子どもは安心感を感じ取り、自分の本来の姿を出すことができるのです。この時期に、子どもが安心して、自分自身を発揮できる保育を目指して、五月はそのスタートにしたいと考えています。

「子どもが考え

自覚を生む決まり」

新学期の四・五月の園は大忙しです。年少さんは、トイレのトレーニングや給食指導。年中さんは、友だち関係をはじめ、落ち着いて話しを聞く姿勢づくり。年長さんは、集団生活における決まり（後片付けのルール等）や、自分のことを伝え、相手の思いを受け入れるコミュニケーションの取り方等の指導に追われます。そして、この時期は、園の「約束事」を子どもたちに伝えることが多くあり、習慣化していくことが大切です。

園固有の様々なルールがあって、園の風土を作り出しています。保育者が子どもを動かしたりやすくするため、手順としての決まりや、守るのが当たり前でなく、片付け等において、「次の人が使いやすいようにね」と、よく説明し、子どもに意味を考えさせるなど、片付けの方法等の多様性を示して、子どもと相談しながらのルール作りが、習慣化につながると思っています。年齢にもよりますが、

みんな考えて作る暮らし（生活）のルールがあることを確認し、子どもの自覚を促すなど、今後の園生活に必要な「決まり」について、この時期に確認し、指導することの大切さを、全学年で共通理解を図って、取り組んでいきます。

自分たちで考える保育やルール作りを通して、園児一人ひとりととって、居場所のある楽しい園生活ができるよう、教職員一同取り組んで参ります。

ご支援・ご協力よろしく
お願いいたします。

幼稚園長 瀬谷 茂

入園児募集

◎満三歳児（二歳児含む）の入園は、四月より随時受け付けております。二歳になつたら是非問い合わせてください。

◎一学期には全トイレが新しく改修されます。是非、見学にお出かけください。

住所 桐生市広沢町

三丁目四七五
電話 0277(53)

557-1

詳細はホームページで

<http://www.jufokued.jp/>

Kinder

5月(正思)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一 貫 校	幼 稚 園
1	日	学校要覧・基本調査作成基準日		
2	月	LHR(M2DV) 授業料納入日 安全点検日	安全点検日	安全点検日 保育料納入日 ダンス(全)
3	火	憲法記念日		
4	水	みどりの日		
5	木	こどもの日		
6	金	後援会総会準備会 夏服引き渡し		
7	土			
8	日			
9	月	男女合同朝礼 県総体壮行会	第1回お役に立とう週間(～15日)	花祭り(大善寺) 年長・個人面談(～13日) ダンス(全)
10	火	薬物乱用防止講演会		
11	水	漢字テスト① マイトリー基金抛金日		群私幼定時総会 英語(全)・文字(年長)
12	木	珠算練習開始 県高P連本部役員会		体育(全)・文字(年中)
13	金	県高校総合体育大会(～15日)	新体力テスト	
14	土	3年河合塾記述模試①		
15	日			
16	月	LHR		年中・個人面談(～20日) ダンス(全)
17	火	歯科検診②		
18	水	後援会総会 授業参観	早期自主学习(～26日)	虫歯予防教室(年長) 英語(全)・文字(年長)
19	木	歯科検診③ 高校総体陸上(～22日)		体育(全)・文字(年中)
20	金	小児生活習慣病健診 貧血検査		4・5月生まれ「お誕生会」 母の会歓送迎会
21	土	1・2年河合塾全統模試①	中高一貫校見学会①茶道教室(中1)AED講習会 (中2)海外語学研修説明会(中3)	
22	日	樹妙会総会		
23	月	LHR 緑蔭祭会場作成 検尿② 二代目校長ご命日(38回忌)		年少・個人面談(～27日) ダンス(全) 教育実習(～3日)
24	火	第33回緑蔭祭・記念講演	第33回緑蔭祭・記念講演	緑蔭祭(年長代表参加)
25	水	中間試験(～27日) 遠足下見1年	中間試験(～26日)	歯科検診(全学年) 英語(全)・文字(年長) お茶のお稽古① 群私幼PTA総会
26	木	遠足下見3年 第1回法人役員会(15:00～)	避難訓練	体育(全)・文字(年中)
27	金	遠足下見2年 3年就職ガイダンス①		
28	土	3年学研VSP模試①	校内弁論大会	
29	日	初代校長ご命日(67回忌) 全経簿記検定①		
30	月	男女合同朝礼 内科検診③		教育実習(～24日) ダンス(全)
31	火	出欠統計 女子制服アフターサービス 前期教育実習生オリエンテーション		

※2日は高等学校・一貫校・幼稚園の安全点検日です



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

[Web] www.jutoku.ed.jp [Mail] office@po.jutoku.ed.jp

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

発行責任者 野口 秀樹
印刷所 太陽印刷工業(株)

夢は大きく 根はふかく